

編集後記

特集「日本における衝突研究の軌跡」はいかがでしたでしょうか。

昔の遊星人を眺めていたところで、過去の衝突特集から20年経っていることに気がつきました。また、北海道大学低温科学研究所で毎年行われている研究集会「天体の衝突物理の解明」も開催開始から10年経ったということも判りました。このようなことから、遊星人に新たに衝突特集を組むべきではという話が関係者で進みました。最終的に誰がゲストエディターをするかという所で、最初に気がつき、言い出した私が引き受けることになりました。

20年前の特集号は実験のみでしたが、今回は実験のみならず、衝突に関わる理論・観測にまで、また理学のみならず関係する工学まで、衝突をキーワードに

範囲を広げましたところ、1ダース近くの論文が集まり、惑星科学の衝突分野にとって2つの節目を飾るに相応しい特集号になりました。ゲストエディターとして、論文を執筆していただいた皆様、査読をしていた皆様、編集部の皆様のご尽力に深く感謝いたします。

この特集号はそのタイトルから分かるように、オリジナルペーパーとレビューが混在しています。レビューについては、これから衝突を研究する、もしくは、衝突の研究を始められた初学者の助けにもなればとも思っております。この遊星人の特集号を読まれた学生さんが、次回の節目にゲストエディターになり、衝突の特集号を組んでいただけたら嬉しく思います。(長谷川 直)